

# 「つくしんぼ」

早苗町にある「つくしんぼ」は、昨年9月に開設された新しいNPO法人で、障害のある人や、その家族のサポートを目的に活動しています。国や地方自治体の施策だけでは行き届かない、柔軟な対応を心掛けています。

現在介助者は4人、支援対象となる障害児の登録者は7人です。支援内容は、支援費制度の居宅介護事業所として、身体介助、家事援助、移動介助などをし、それ以外にも、放課後託児や、学校、職場の移動介助なども有償で行っています。また、



山田美也子理事やスタッフの岡田桂子さんなどは障害児を持つ親としての経験を生かして、家族介護者のケアにも力を入れています。

障害児専門の学童保育としては市内初の試みで、養護学校や特別支援クラス在籍の子どもが、放課後学習や遊びを通しながら、療育指導や地域の中で自立できるような指導を目指しています。

## 地域の中で共に学び合う場所に



つくしんぼ理事 山田美弥子さん

「つくしんぼ」は、障害児をお世話するだけではなく、その親や家族とも一緒に学び合う場にしたいと思います。また、行政に一方的に頼るのではなく、互いに何が出来るか、話し合いながら進めていきたいです。

介護をする上で大切なことは、利用者に気持ちよく過ごしてもらうことで、さらにそれが親にも伝わるのが大事です。いつも、先入観にとらわれない、真っさらの気持ちで接することができたらと思っています。また、障害者自身や家族もほかの人にバリアーを作っていたのではいけないし、ここで働く介助者の人には多くの人々に障害児(者)のことをアピールしてほしいと思います。障害児を持つ親としていろんな経験をしましたが、ここで利用者のお世話をできることは自分の勉強だと思います。今ではきょうここにあることをありがたいと感じています。

# 「ふれんず」

平成13年に、地域で生活する精神障害者に対し、日常生活の支援や相談、地域との交流活動などを推進し、精神障害者の社会復帰と自立を促進する目的で設立されました。



毎週土曜日に開かれる夕食会

常盤町の富士ビルにあり、運営は市から委託されたNPO法人チーム・フォー・バイ・フォーが行っています。

職員は常勤3人、非常勤4人です。原則として毎日10時30分から19時まで開所しています。毎日二十数名の利用者が訪れ、談話やゲームを楽しむ、パソコン教室、卓球などのほか、毎週1回夕食会や茶話会も催されています。

チーム・フォー・バイ・フォーは、このほか、福祉的就労の場として、地域作業所の「喫茶どりいむ」の支援や「シルク印刷工房わくわくワーク」も運営しています。

## ありのままの自分で過ごせる場所に



精神保健福祉士 堀 崇弘さん

精神障害には、統合失調症や、そううつ症などの気分障害、てんかんなどがあります。このうち、統合失調症は100人に1人は発症の可能性があるとされています。

生活支援センター「ふれんず」ができて、精神障害者が相互に交流し、情報交換できる場ができました。NPO法人が運営している精神障害者の生活支援センターは、全国でも珍しいようです。

最初は、親や医療施設、福祉施設の職員が当事者を連れてくる場合が多いのですが、皆さんここにはリラックスできるようです。ここに来ることによって、行動範囲が広がり、生活のリズムが整ってきます。障害のある人にとっては、家族の支えとともに、自分の存在がそのまま受け入れられ、ありのままの自分で過ごせる場所が必要だと感じています。

# 「あすなる作業所」「おおぞら作業所」



市立知的障害者通所授産施設「おおぞら作業所」

市立身体障害者通所授産施設あすなる作業所と同知的障害者通所授産施設おおぞら作業所は、昭和62年に干束町の市立障害者福祉センター内に開所されました。

両作業所は社会福祉法人むすび会によって運営され、その目的は、利用者が職業訓練や生活訓練を受けながら、地域社会で自立できるように支援することです。

開所時間は8時30分から17時までで、両作業所とも約30人が作業をしています。作業内容は、あすなる作業所が菓子箱加工、イカ釣り針加工

で、おおぞら作業所が菓子箱や健康器具の加工、贈答商品の箱詰めのほか、公園の清掃もしています。

両作業所の利用者は、注文を受けた箱づくりなどの作業に一生懸命に取り組んでいます。作業も正確でスピードも早く、次々と立派な商品が出来上っていました。

両作業所はことしで設立20周年を迎えますが、これまでに約30人が一般企業などに就職しています。

障害者にとって就労は大きな問題です。2005年版「障害者施策の概況」(障害者白書)によると平成16年6月現在の全国の障害者雇用率は、民間企業(56人以上)で1・46%にとどまり、法定雇用率の1・8%に達しませんでした。

市内には、福祉的就労の場として、両授産施設のほか、知的障害者通所授産施設が3カ所、精神障害者通所施設が1カ所、入所授産施設が1カ所あります。また、市内の障害のある人を対象にした小規模作業所は10カ所、知的障害者小規模通所授産施設が1カ所あります。

しかし、福祉的就労から一般事業所の就労へと結びつくケースは少ない状況です。

# 心のバリアフリーセンター



障害者の皆さんが合唱した「みんなで歌おう」

昨年12月11日、障害者週間になんだ「心のバリアフリーコンサート」が、実行委員会と市の主催で花園町の市民会館で開催されました。

「心のバリアフリーを育てる街佐世保」宣言の後、「みんなが歌おう」では、市内の障害者施設や作業所などの人たちが出演し、熱唱しました。



次に、視覚障害者で、盲導犬を連れて歌唱活動をしている天野亨さんと盲導犬アンディ



作業所などで作られた作品やお菓子などが販売されたバザー

点で、障害のある人も何でもやってみたいのです」と語りました。

最後は、佐世保養護学校高等部の力強い和太鼓の演奏で幕を閉じました。